

神港学園報

2013
February
第67号



第65回生
卒業おめでとう

Contents

逃げない p1 理事長 植村 武雄	ご卒業おめでとうございます p3 生徒会 中川 廣樹
「自分の一番」を磨き、21世紀社会での活躍を期待!! p1 学校長 豊田 稔	育友会の主な活動 p4
高い志をもって p2 育友会 会長 山崎 雄史	岩手県大船渡市でのボランティア活動について p5~8
友を探せ ~巣立ちゆく後輩に送る~ p2 金星会 会長 加藤 均	本年度の進路状況について p9
旅立ち p3 第3学年主任 棚瀬 智之	平成24年度 進路状況 p10
	各賞の受賞者(卒業生) p11~12
	活躍する各クラブ p13~14
	税の作文「税について思うこと」 p15 1年2組 平田 陽亮



発行人 学校法人 神港学園

〒650-0003 神戸市中央区山本通4丁目19番20号 TEL.(078)241-3135 FAX.(078)232-1570
<http://www.shinko.ed.jp> E-mail. info@shinko.ed.jp

逃げない

◀◀ Message



理事長
植村 武雄

第65回生の諸君、卒業おめでとう。
保護者の皆さま、おめでとうございます。
理事会を代表して、心からのお祝いを申し上げます。

諸君には、これからの人生それぞれに、本学園でともに学び、語り合い、行動する中で身に付けられた「品位」と「規律」と「持久力」を忘れず、さらに磨き上げてほしいと願って止みません。いよいよ、本格的に人生の旅立ちです。皆さんは、これから大人として、自ら考え、自ら行動し、自身のかけがえのない人生を切り開いていかれるわけです。

今、わが国は、政治、経済、社会すべての面で極めて不安定で、少子高齢化が進展する中で福祉はどうなるのだろうか等さまざまな将来不安が蔓延し、人々は弱気になっています。

しかし、わが国には素晴らしい力があります。皆さん、ロンドンオリンピックでの日本選手団の活躍、iPS細胞でノーベル医学、生理学賞を手にした山中真弥教授の快挙等を思い起こして下さい。高校生活から巣立っていく諸君、諸君だけは弱気にならず、信じることをブレずにやり抜く、そんな今後を期待しています。

そこで、私は諸君に「逃げない」という言葉を贈りたいと思います。皆さんは今まで、教わる、指導を受けるといったいわば受身中心で過ごしてこられたと思います。しかしこれからは、自ら学び考え、行動していくという主体性が求められます。

教わっていないからわかりませんという言い訳はこれからは通用しません。単に逃げていると思われるだけです。わからなければ、自らよく調べ考えること、そして、積極的に他者の意見に耳を傾けることです。諸先輩や家族、そして何よりも本学園で友情を育んだ友達の考えを聴いて判断することです。私が「逃げない」というのは、こういう意味です。また、大きな困難、嵐に直面したとき、岩陰に身をひそめて耐え忍ぶことも「逃げない」ということです。やみくもに突進することが「逃げない」ということではありません。

私は、皆さんには、この「逃げない」という言葉をキーワードとして、強い人間になってほしい。人間力を身につけてほしい。自分のためだけでなく、世のため人のため、かけがえのない、存在感のある大人になって下さい。

最後になりましたが、教職員の皆さまの情熱とご尽力に感謝申し上げます、私の祝辞とします。

『自分の一番』を磨き、21世紀社会での活躍を期待!!

◀◀ Message



学校長
豊田 稔

65回生の皆さんご卒業おめでとう。
皆さんは高等学校の生活からそれぞれの進路へと旅立ちます。

21世紀に入りすでに12年が過ぎました。少しは良き時代の到来を期待しているのですが、未だテロ、戦争、犯罪に加えて自然現象による過大な被害等、不幸な出来事が世界的規模で起こっています。特に日本では、平成23年3月11日の東日本を襲った観測史上最大の地震、大津波に加えて福島原発事故が発生し、間もなく2年を迎えますが、あまり復旧が進んでいないのが現状です。

昨年7月、4日間と短期間でしたが生徒会が中心となり、教職員4名、生徒19名(3年生9名)で被災地大船渡市の仮設住宅でのボランティア活動と県立大船渡高校生徒会と交流会を行いました。陸前高田市の海岸に近い道路から見た光景は凄まじいもので、当時のまま、建物もなく瓦礫の山でした。大船渡市の仮設での窓ふき、清掃の時には、住民の方々から明るい声でお礼を言われたり、中にはお土産まで頂き、大変な生活を送られているのにとても元気な様子に触れ、少しほっとしました。3年生は進路で忙しい時期であるのに活動の中心になってくれました。感謝しています。この経験はこれからの人生できっと役立つと思います。

さて、入学して早3年が経とうとしています。入学式の式辞の中で高校時代には本学園の建学の精神の一つである『個性を伸ばす』ことが大切であり、そのためには学習面での基礎・基本の習得、そして生活面での「良き友」、「良き師」との出会いが「一番いいもの」を光り輝くものにしてくれると話しました。

この3年間のいかがでしたか。教室で、部活動で、文化祭・修学旅行や体育大会等の学校行事を通して、友人や先生方と多くの語り合いをすることができましたか。「良き友」、「良き師」との出会いがあり、充実した日々の中で、人生の設計の礎を築いてくれたのではないかと考えています。しかし、一人一人が自分の足でしっかり立ち、グローバルにもものを見る知識、国際社会に通じる人間、社会に役立つ人となるためには、今後も一層の研鑽がなければなりません。

この激動の21世紀社会を担い、その主役として活躍されることを期待されているのが、今一番元気で若さと活力に溢れる皆さんです。この3年間の神港学園でのすばらしい多くの体験を役立て、皆さん一人一人が知恵と活力を、人々の安心や幸福のために是非とも活用できるよう、それぞれの進路先で、さらに研鑽を積んで頂きたいと願って止みません。

最後になりましたが、保護者の皆様、3年間温かいご支援とご協力を頂きましたことに、心から厚くお礼申し上げますと共に、お子様の益々のご活躍を心から祈念いたします。

高い志をもって

◀◀ Message



育友会 会長
山崎 雄史

神港学園65回生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。
また、三年間、温かく見守ってくださいました保護者の皆様に心よりお祝い申し上げます。
皆さんが胸をときめかせて本校に入学してはや三年、螢雪の功が実り、今日の日を迎えられましたことは、なんとも名状しがたい想いが胸中を去来していることと存じます。

高校生活は三年間という短い期間ですが、単に机に向って勉強するだけではなく、部活動などの課外活動もあり、さらには進路や友人関係、恋愛などで思い悩むこともあったのではないのでしょうか。このように心身ともに充実した学生生活を過ごせたことは、大変、意味があることだと思います。

これから皆さんは、進学や就職など、それぞれの道を歩まれますが、その道の途中では、多くの困難に直面することと思います。傷つき、深く悩むこともあるとは思いますが、そのとき、神港学園で培った経験が大きな助けになることでしょう。また、この学園で出会った友人たちは、皆さんを支える大きな力となることでしょう。皆さんが、これからの人生で経験するであろう、そうした試練が、皆さんをさらに成長させてくれると思います。

現在、皆さんを取り巻く環境は、景気の低迷などにより依然厳しいものがありますが、皆さんの若く元気で前向きな力は、必ずや将来の日本を、明るく活力あふれる社会とする原動力になると確信しています。今後とも高い志をもって幅広い分野で活躍されますことを心から期待いたします。

最後になりましたが、今日まで熱心にご指導いただいた校長先生をはじめ諸先生方、また、三年間、育友会活動にご理解、ご協力いただきました保護者の皆様に対しまして深く敬意を表しますとともに、心から厚く感謝申し上げます。今後とも神港学園を御支援いただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

それでは、卒業生の皆さん御健勝での御活躍をお祈りしております。

友を探せ ～巣立ちゆく後輩に送る～

◀◀ Message



金星会(同窓会) 会長
加藤 均

このたび、卒業を迎えられた皆さん、おめでとうございます。また、卒業生のご家族の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。

卒業生の皆さんは、吉田兼好という名前を聞いたことがあるでしょう。在学時代、古典の時間で勉強されたかもしれません。吉田兼好は、鎌倉時代の末期に生きた歌人であり、いまでいうエッセイストです。手持ちぶさたの日々の中で、吉田兼好が感じ考えた様々なことを記したのが「徒然草」です。古典の代表的な作品ですが、試験勉強や入試のためだけに読むのではあまりにもったいないと私は思います。古典には私たち日本人の素晴らしい感性や知恵が隠されているのです。

吉田兼好は、徒然草の中で「友だちにするにはよくない者」として「病気をしたことがなくいつも健康な者」と言っています。一瞬、何かの間違いではと思うのではないのでしょうか。いつも健康で元気で何がいけないのでしょうか?兼好の言いたかったことは、「人間は辛いこと、苦しいことを経験したことがないと傲慢になり、他人に優しくできない。だから病気をしたり少し弱いところがある人間の方が、他人に優しくなる。」ということなのです。

吉田兼好は、決して病気になることを推奨したり、いつも弱いままでいいと言っているわけではないのです。傲慢にならず、弱者の心を知り、他人に優しくあれ、と言っているのです。皆さん、卒業はこの学び舎からの巣立ちであると同時に、新たな出会いの始まりでもあります。神港学園で出会った友、そしてこれから出会う友を大切にしてください。いつも自分本位に考え、相手のことを考えることのない「強き者」である前に他人の気持ちを慮ることができる人間になってください。そうすれば、あなた方の周りには素晴らしい友が必ずいてくれるはずです。卒業に際して皆さんに贈る言葉です。

旅立ち

◀◀ Message



第3学年 主任
棚瀬 智之

第65回生の諸君、卒業おめでとう。保護者の皆様におかれましては心よりお祝い申し上げます。立派に成長された姿を目の当たりにし感慨もひとしおのことと思います。

平成22年4月9日、君たちはここ神港学園神港高等学校において新たな第一歩を踏み出しました。あれから3年の月日が経とうとしています。入学当初は、まだ幼さが残ったあどけない顔立ちで、希望と不安が見え隠れしていたように思えます。今ではすっかり大人の顔になり自信に満ち溢れています。この高校3年間が君たちにとってなにもにも代えがたい時間であったか思い返してみてください。一生の思い出や生涯の友人をつくることができましたか。この高校生活の1分1秒を有意義に使えたでしょうか。進学という目標を掲げ、日々の授業から放課後の補習まで頑張った生徒。毎日部活動に汗を流し、厳しい練習に耐え、己を鍛えた生徒も多いと思います。中には目的を持たずにただ毎日を楽しみ惰性で過ごしてしまった生徒もいるかと思えます。君たちの人生はおよそ1/4ぐらい過ぎましたがまだまだこれからです。

2年次の修学旅行は香港・マカオに学年全員で行くことにしました。マカオでは「水の劇場」ダンシング・ウォーターや世界遺産が多く点在するセナド広場周辺を見学しました。また、香港の夜の街中をドライブするオープントップバスやディズニーランド。たくさんの思い出を作ってくれたと思います。言葉の違いや食事の違いに戸惑った生徒も多かったでしょうが、異国の文化・風習を少しでも肌で感じることで日本だけではなく、グローバルな視野に立って物事を考え、行動できるようになってほしいと思います。

3年生になり次に進むべき道である進路選択の時期になりました。大学・専門学校・就職と真剣に将来を見据え自分がどの道に進むべきか真剣に考えたことでしょう。大学・専門学校に関しては、一般入試を受験する数名の生徒以外は進学先が決定しているという状況です。就職はまだまだ厳しい状況でしたが、進路指導部と担任の先生方の熱心な取り組みと生徒たちの頑張りで、ほとんどの生徒が内定をもらうことができました。

今が高校生活のゴールであり、また新たなスタートでもあります。これから先、各自が別々の道を歩み厳しい社会に身を置くことになると思います。君たちは今まで以上に色々な事を体験するでしょう。辛い日、悲しい日、思わぬことで胸を痛める日もあると思います。しかし、それは我々が成長するための大事な課程です。一つ一つ乗り越え人として大きな人間になってほしいと思います。どんな時にも常に真実を見極め、自己を見失うことなく、自分だけではなく周りの仲間や他人を気遣う優しさ、人々の苦しみに共感できる温かい心を持ってほしいと思います。

本田宗一郎の言葉に「チャレンジして失敗を恐れるよりも、何もしないことを恐れる。」という言葉があります。我々にも言えることですが、「無理」とか「できない」ではなく、まずはやってみましょう。その結果が悪くても経験として得るものは大きいと思います。君たちにはまだまだ可能性があります。自分でラインを引かず限界を決めつけないで第一歩を踏み出して下さい。

ご卒業おめでとうございます

◀◀ Message



生徒会
中川 廣樹

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

先輩方は、どのような気持ちで神港学園の3年間を過ごされましたか。自分の進路に向かって歩くため3年間が長く感じた方、皆と一緒に修学旅行等の行事で盛り上がり、楽しい時間であつという間に3年間が過ぎたと感じた方など、様々な感じ方があると思います。しかし感じ方が違っていても楽しかったことや、苦しかったことなどは皆さんの貴重な思い出となっていると思います。3年生の皆さんと一緒にやった行事の中で、体育会や文化祭は、僕達1・2年生にとっても心に残る思い出となりました。

この3年間で出会った最高の仲間、素晴らしい先生方から学んだ事や経験した事は、絶対忘れないで下さい。

卒業される先輩の皆さんには、いろんな面でお世話になりました。

僕が今こうして生徒会会計をやっているのも先輩方のおかげだと思っています。これから先輩方は、自分で決められた大学、専門学校、就職先など、それぞれの新しい進路に進んでいかれることと思います。初めて経験されることや様々な厚い壁もあるかもしれませんが。そんな時は、神港学園で学んだ事、経験した事を思い出してみてください。きつと壁を乗り越える勇気が湧いてくると思います。そうして自分らしく、明日に向かって歩み続けられるように頑張ってください。

僕達は、先輩方が受け継ぎ、築いてこられたこの神港学園の伝統を引き継ぎ、後輩の手本となるように頑張ります。最後になりましたが、3年生の先輩方、本当にありがとうございました。これからのご活躍をお祈りしております。

育友会の主な活動

平成
24年度

育友会総会(5月12日)

平成23年度事業報告、決算報告
平成24年度事業計画案、予算案提出
新役員選出、学級委員承認

親睦旅行(6月2日)

京都／貴船方面

文化祭に向けての教養委員会(7月14日)

文化祭準備(8月18日)

試食会、ポスター・食券等作成作業

文化祭前日準備(10月5日)

バザー品値付け、調理器具準備他

文化祭(10月6日)

おふくろ庵、バザー

生徒指導合同懇談会(12月1日)

本校の生徒指導について



岩手県大船渡市でのボランティア活動について

Iwate・Ofunato



派遣日 平成24年7月11日(水)～14日(土)

行き先 岩手県大船渡市、県立大船渡高等学校及び市内仮設住宅

活動内容 県立大船渡高等学校との交流 仮設住宅の清掃(窓ふき・草刈り)活動及び住人との交流

人数 生徒19名

教職員4名(豊田 稔、栄永 利夫、杉山 良明、鏡原 友実)

協力 兵庫県社会福祉協議会 ひょうごボランティアプラザ

岩手県立大船渡高等学校 生徒会 大船渡市仮設住宅支援事業 みんなのコールセンター

参加者(一般生徒)

谷口 耀一、本間 友行、福田 甲庸、山口 達也、辻岡 直樹、半井 大稀、中谷 駿介、井上 瑠海、勝木 健太、長谷川 奏良、長谷川 郁、武知 彩華

参加者(生徒会)

木村 翔太、中村 雅紀、湯川 一樹、末松 泰平、中川 廣樹、窪 隆光、山本 大輔

ボランティア活動に参加して

3年7組 木村 翔太

7月11日(水)から7月14日(土)まで生徒会主催として、岩手県大船渡市でボランティア活動をしてきました。

東北地方太平洋沖地震による被災の状況は都市によって違うらしいのですが、僕たちが行った大船渡市は、海が近く津波の被害が酷く思えました。

学校を出発する時、現地はどの程度の被害なのか?現地の方々、僕たちを受け入れてくれるのか?といった疑問に思う部分がありました。

まず、現地の印象ですがホテルの周りにはなにもなく、「殺風景」の一言でした。テレビで見た光景をいざ目の前にすると、どう表現すればいいのか分かりませんでした。「言葉がでない」とはまさにこの事だと思いました。この場所で何人もの方々が亡くなったと思えば胸が痛くなりました。

そして仮設住宅で窓拭きのボランティア活動を行いました。雨の中でしたが、住民の方の笑顔により気持ちのいい窓拭きとなりました。窓拭きの活動が終わり集会所で地域の方との交流会を行いました。その時住民の方から聞いた話は僕は一生忘れません。その話とはある高校での話です。その高校のたくさんの生徒は家族を探す為、震災後様々な場所の遗体安置所を周り家族を探していました。そして服の着替えもないので制服のままひたすら家族を探す為に回っていたそうです。するといつの間にか、お線香のにおいが制服に染み付き洗濯しても取れなくなったそうです。そして、たくさんの生徒が制服で回っていたので教室に生徒が集まると、教室がお線香のにおいで充満し、そのにおいがトラウマになり体調不良を訴える生徒が何人もおり、登校することが困難な生徒まで居たそうです。この話を聞いて、僕はとても悲しくなりました。僕自身も祖母を病気で亡くした時、制服についてお線香のにおいでその時の状況を思い出す事が何度もありました。そういった誰もが辛い中でもみんなが励まし合い、みんなが一つになろうと努力する姿に僕は感動しました。

そして、交流会が終わり住民の方がホテルまで歩いて帰ろうと提案して下さり、僕たちは歩いてホテルまで帰りました。



■ 仮設住宅での窓拭き



■ 仮設住宅での草抜き・清掃活動

バスの中から見るだけではわからなかった光景が僕達を直撃しました。鉄骨しか残っていない建物、基礎だけが残された家の跡、建物の瓦礫、廃線になった線路、津波によって流された駅の跡、三階建の家の三階部分について津波の跡。この様々な光景を目の当たりし、僕は言葉ができませんでした。案内して下さった方が何も無い土地を目の前してこういいました。「ここがね、おばちゃんがやっていた店の跡!入り口がここにあってね、奥まで建物があったの。」と言っていました。そして僕は疑問に思い「なぜ同じ場所に建てないのですか?」と質問をしました。すると、津波によって地盤が緩くなりどこも後、七、八年しないと建物が建てられないと言っていました。僕はこのせいですぐに復興ができないのだなと思いました。

そして最終日、大船渡高校と交流会を行いました。

大船渡高校との交流会は非常に盛り上がり、大船渡高校の学校見学や、お互いの学校の事をプレゼンテーションし合い、生徒会としての仕事も成功し、とても楽しかったです。そしてプレゼンテーションも終わった後、四班に分かれて自由に話し合いをする時間が設けられ、お互い打ち解ける事ができ、とても良い交流会となりました。

今回の東日本ボランティア活動に参加して思ったのは、復興していない状況で日常生活を送っている人たちは、まだまだたくさんいます。そんな状況で心の支えになったのは、現地の住民からの感謝の言葉、仮設住宅建設により狭くなっているけれどグラウンドで遊ぶ子供たちの笑い声、今回一緒に行ったボランティアメンバーとの絆、そして少し走ると見ることができるバスの窓から見る美しい田園風景でした。

自分たちのこの手で、このすばらしい人たち、この美しい風景、そして何よりも子供たちの笑顔を守らないといけないと思いました。命の大切さ、人との絆の大切さ、みんなで一つの事に協力する大切さを、改めて実感した東北ボランティア活動でした。機会があれば、また参加したいと思いました。

ボランティア活動に参加して

事務職員 杉山 良明

3. 11に、今まで見たこともない想定外の津波が東北を襲い、ありとあらゆる物がいとも容易く流され、人々が泣き叫ぶ映像をテレビやネットで見た。東北ボランティアに行くことが決まってから、そんな悲惨な映像を見たのもあり、「あんな生きるか死ぬかの経験をされた方に対し、自分が東北に行って何が出来るのか? どうせ何もできやしない。ひやかして過ぎないし余計邪魔になるだけだ。」終始そんな迷いと、そして地震津波の恐れがある東北へ行き、生徒達を無事神戸に帰さなければいけないという重圧を抱きながら、とうとう当日になりバスに乗り込んでしまった。

17年前、阪神淡路大震災の激震を体験し、自宅は全壊、社会人になりたての自分には、震災以外でも私生活で仕事や恋愛、全てが思い通りにいかず悪戦苦闘の日々を送っていた。辛い一言で片付けられるほど、簡単な思いではなかった。

バスに揺られ大船渡の少し手前の陸前高田に入ると、バスの中からでも阪神淡路大震災で経験した当時と同じにおいがした。焦げただれたにおい。17年ぶりに嗅ぐ震災のにおい。あの時の過酷な日々を思い出した。「わざわざここまで来て何故こんな思いをしないといけなのか?」

気分が沈んだ。やはり来なければ良かった……。

16時間かけてようやく大船渡に着いたがあいにくの大雨。晴天なら仮設住宅での窓拭き、雨なら住民との交流会を予定していた。私にとってはどちらでも良かった。何故ならどうせ生徒達はこんな大雨の中、作業をしたがらないだろうと高をくくっていたからだ。一応生徒達に「雨なら交流会だけを予定しているけど、窓拭きしたい人は手を挙げて!」と聞いてみた。どうせ誰も手を挙げやしないだろう……。私の安易な思いを生徒達は覆してくれた。全員が即座に手を挙げた。驚いた。全員の何かしら手伝いたいという気持ちが一つになって現れた。素直に嬉しかった。と同時に、涙が出そうになった。大雨の中、約2時間窓拭きを行った。住民の方がお菓子や飲み物を差し入れてくれたり、励ましの言葉をいただいたり、全身ずぶ濡れになりながらも、心はとてすがすがしい気分だった。来て良かったかもしれない……。

その後交流会で震災の生の声を全員が真剣に聞き入った。神戸より悲惨な経験をされている。聞くところによると、津波により流された住宅の再建の目処は無く、仮設住宅での生活を余儀なくされているのだ。私も阪神淡路大震災により約1年ほど仮設住宅での生活を送った。1年でも気が狂いそうな生活だった。ただ、大船渡の人たちはみな口を揃えて言う「仲間がいるから大丈夫。」と、前向きで明るかった。東北の人の優しさ、寛大さを垣間見る事ができた。



交流会も終わり、現地支援員の方が「案内をするので宿泊先まで歩いて帰って、生徒さん達にも是非町並みを見てもらいたい。」と私に話しかけてこられた。仮設住宅からホテルまで歩いて20分、バスで5分ほどの距離で、津波により寂れてしまった町並みを歩いて体験するにはいい機会だと私も思った。生徒達に先ほど同様挙手で聞いてみることにした。今度はきっとさっきの勢いで生徒達は手を挙げてくれるだろうと高をくくっていた。これで全員が手を挙げてくれたら感動のあまり涙を流してしまうだろう。「来て良かった!」と思ひ知らせて欲しかった。「俺は宿泊先まで歩いて被災地の町並みを見て戻るけど、歩いて宿泊先まで戻りたい人は手を挙げて!」……シーーンとひと呼吸の間があり、ばらばらと手が挙げただけだった。最近の高校生は良く分からない……。

結局、元生徒会長の木村君がその状況に気を遣ってくれて、生徒会全員と数名が歩いて帰ることになった。(ありがとう木村!)瓦礫を片付ける重機、空き地になったままの住宅街、コンクリートだけ残ったプラットホーム。ただただ空虚な世界だ。虚しさを感じるとともに自分の置かれている「普通の生活」に有難みを感じた。

東北2日目、目覚めるとすがすがしい朝だった。有難い事に、雨という前日の天気予報が嘘のように青空が広がっていた。大船渡も海と山が近く神戸と似ている。震災の独特のにおいを忘れるほど海風のにおいが心地よかった。海風のにおいも神戸と似ている。凄く親しみがあり良い町だ。

この日の午前中は予定していた仮設住宅での窓拭きと草刈りを行った。相変わらず住民の方々は優しく声を掛けてくれる。そして、昨日同様住民との交流会を開き実体験を聞くことができた。中には涙ながらに話をしてくださった方もいた。

交流会も終わり、昼食を取りに徒歩10分ほどの公民館へ向かった。途中、あまり車通りのない車道を横切ることになった。その時ちょうど一台の車が向かってきた。私達はその車が通り去るのを待とうとした。が、その車はどンドンスピードを落とし、停まったと同時に私達に対しお辞儀をし、ニコッと笑いながら手でどうぞと渡るよう合図を送ってくれた。そして、私達が渡り終えるのを見るなり、微笑みながら何度も何度もお辞儀をされ、

ゆっくりと発車させた。東北の人はどこまでおおらかなだろう。本当にここは日本なんだろうか？それともこれが本来の人情味溢れる日本の姿なんだろうか？古き良き幼少の頃を思い出し、懐かしく思えた。

午後になり大船渡高校へ向かった。まず、大船渡高校の見るからにしっかりとした生徒会が学校を案内してくれた。施設や授業を見学して、授業内容を聞いた本校の生徒達も学力の差を感じ、口にしていた。私自身この後の双方の学校紹介や交流会が不安になった。というも、出発前にプレゼンの練習をしたのだからいまひとつだったからだ。これは完全に恥をかくと学校を見学しながら思った。いざ交流会になり、私の不安を一掃してくれた。誰もが感心してしまうほどの素晴らしいプレゼンを生徒達はしてくれた。なんなんだこの子達は？本当に最近の高校生はよく分からない。と同時に、この子達の隠し持っている才能と適応力にただただ感心した。そして、双方のプレゼンを終え交流会を行った。やはり同世代の交流会という事で、生徒達の表情を見ると実に楽しそうで、はつらつとした表情をしていた。時間もなく生徒達には申し訳ないが、バスに乗り帰路についた。

結局「東北に行つてなにかできたのか？」と今でも考えてしまう。答えが見つからない。私は医師でも潜水士でも自衛隊員でも富豪でもない、いち平凡な人間が被災地に行き元氣

を与えるつもりが、被災地の方の人間としての温かさ優しさに触れ、逆に元気づけられ、何もできない自分の未熟さや愚かさを感じる。憂鬱になる。所詮ボランティアと言う名の自己満足じゃないかと。いつかこの答えが出せるよう自分がいま出来る事をしっかり判断し、また自分自身を磨き、少しでも被災地に貢献したいと思う。それがこのボランティアで出会った方々、そして支援していただいた方々へのせめてもの御礼だと思う。

【そのうちなんとかなるだろう】

私の好きな言葉だ。凄く簡単で、凄くいい加減で、凄く投げやりな言葉だが、逆に凄く前向きな言葉だと思う。阪神淡路大震災から17年が経ち、当時過酷な経験をした私でも、今では素晴らしい職場で素晴らしい仲間と働くことができ、未知数の可能性がある良く理解できない可愛い生徒達に囲まれ、結婚もして子供ができ、幸せな生活を送っている。それが『普通の生活』になっている。風化させてはいけなそう思いながらも、もはや阪神淡路大震災の記憶など哀しいかな薄れてきている。こんな事を軽はずみに表現すべきではないのかも知れないが、きっと東北の被災地も残酷なほどに時間が解決してくれ、そして『普通の生活』が訪れるのであろう。その日が訪れるまでどうか前向きに希望を捨てないでいただきたい。

きっと大丈夫、そのうちなんとかなるだろう…。

Schedule

区分	時間	項目	場所	備考
1日目 7月11日(水)	16:00	集合	神港学園神港高等学校	荷物の搬入等
	17:00	出発		
	19:00	夕食	多賀SA	バス車中泊
2日目 7月12日(木)	6:15	朝食	長者塚SA	
	9:45	到着	大船渡市永沢仮設住宅	大船渡中の校庭
	15:00	終了	ホテルへ移動	プラザホテルへ徒歩(約30分)
	15:30	到着	大船渡プラザホテル	
	17:30	夕食	ホテルレストラン	ホテル
3日目 7月13日(金)	18:00		反省会・打合せ	
	6:00	起床	ホテル	
	7:00	朝食	ホテルレストラン	
	9:20	出発	ホテル	
	9:30	到着	大船渡市轡轡石仮設住宅	猪川小学校校庭
	12:20	終了	仮設の清掃等・交流会	大船渡高校の近く
	12:35	昼食	猪川地区公民館	
	14:40	到着	県立大船渡高等学校	大船渡高校へは徒歩(約15分)
4日目 7月14日(土)	17:30	終了	学校見学・交流会等	
	18:00	出発	県立大船渡高等学校	
	19:30	入浴・夕食	一ノ関	
	6:30	朝食	尼御前SA	
	12:10	到着	神戸	解散

本年度の進路状況について

進路指導部より

まず、専門学校への進学に関しては、就職直結型のビジネス系分野と共に、自分の趣味、特技をさらに拡張できる学科が今年も人気を集めました。51名の専門学校進学者のうち、7割の者が、調理製菓、理容美容、エステを含む衛生分野と、声優、音楽、デザイン、語学、公務員受験系を含めた文化・教養分野を選択しています。医療分野は、高齢化社会の浸透に伴い、需要の増加が見込まれるものの、適性や学習能力の有無が問われ、1割程度に留まっています。

大学受験も、「早く」「近く」「確実に」内申成績を活用する指定校制度への申し込みが依然として多い一方で、校内ガイダンスや体験授業への参加を通して、自分に合った学部学科選びにこだわりを示し、「学校名」よりも「カリキュラム内容」を重視する選択基準も徐々に見直されつつあります。

進学系のコースを中心に学科試験に挑む場合は、「国英」か「数英」の組み合わせで、安定した成績を維持することに振り回され、理科・地歴に手が回らず、受験機会の幅が狭まっているのが現状です。

1、2年生の生徒諸君は、日常の授業と定期考査に力を注ぐことは当然ですが、希望者による校内外の模擬試験を受験したり、漢検、英検、数検など、自分の能力を客観的に判定してくれる資格試験に自ら挑戦して下さい。練習試合や公式戦に出場するスポーツ選手と同様、年間の課題・目標として設定し、「勝つか負けるか」の実戦的な緊張感を味わえる場面で是非、自分を追い込んで下さい。

平成24年度の就職状況については、4年前の経済危機、東日本大震災の影響、さらに円高による雇用不安等で不況が長引き、昨年度同様就職氷河期の状況が続きました。企業によっては回復傾向も若干ある中、即内定につながることは難しく、職種によっては求人すら出ない企業もありました。求人数が横ばいの状況の中、兵庫県内の高校生の就職希望者は昨年度より増加しており、競争倍率も非常に高くなりました。そんな状況の中「筆記試験での学習能力」をまずボーダーに設定する企業が増え、「面接試験での人間力」「適性検査での仕事力」など総合的に企業が求める人材かどうかで内定が決まるというのが本年度の特徴でした。本校でも昨年度以上に厳しい状況になると考え、本年度も早い時期から指導を開始し、学校推薦での就職希望者全員に問題集を購入させて家庭学習や個別指導はもちろんのこと、面接指導においてもVTRを使用して客観的学習法など夏休み返上で行った結果、第1次受験者の内定率が73%(県全体は50%)となりました。2次募集以降の求人も極端に少ない中での苦しい戦いではありましたが、生徒達が粘り強さを発揮し、12月には学校推薦の生徒達も全員内定をいただけることができました。来年度についても進路指導部としてはここ数年の経験をふまえ、就職に対して取り組む姿勢の重要性や内定獲得に向けてのきめ細やかな入社試験対策の指導を心がけていきたいと考えています。

平成24年度 進路状況 平成25年1月15日 現在

4年制大学合格者 205名

大学名	学部名	合格人数
芦屋大学	経営教育学部	2
	臨床教育学部	1
岡山商科大学	経営学部	1
	教育学部	1
関西国際大学	人間科学部	3
	外国語学部	1
京都外国語大学	外国語学部	1
京都産業大学	経営学部	2
近畿大学	産業理工学部	1
	法学部	2
甲南大学	知能情報学部	1
国土館大学	21世紀アジア学部	1
阪南大学	経営情報学部	2
	経済学部	4
	国際コミュニケーション学部	1
	国際観光学部	1
山梨学院大学	流通学部	1
	経営情報	1
	人文社会学部	1
	リハビリテーション学部	1
四天王寺大学	経営学部	3
	経済学部	7
	人文学部	5
	総合リハビリテーション学部	4
神戸学院大学	法学部	11
	デザイン学部	2
神戸芸術工科大学	先端芸術学部	1
	経済学部	2
神戸国際大学	現代社会学部	4
神戸山手大学	観光文化学部	1
神戸夙川学院大学	経営学部	3
摂南大学	理工学部	4
	人間学部	1
太成学院大学	音楽学部	1
大阪音楽大学	経営学部	5
	経済学部	8
大阪学院大学	国際学部	3
	情報学部	4
大阪経済大学	経済学部	1
	経済学部	3
大阪経済法科大学	法学部	2
	芸術学部	1
大阪芸術大学	情報科学部	1
大阪工業大学	デザイン工学部	2
	経営学部	2
大阪産業大学	経済学部	2
	工学部	3
大阪商業大学	人間環境学部	2
	経済学部	4
大阪人間科学大学	総合経営学部	12
	人間科学部	2
大阪成蹊大学	マネジメント学部	1
大阪電気通信大学	医療福祉工学部	1
	工学部	3
大手前大学	総合情報学部	2
	メディア・芸術学部	2
拓殖大学	現代社会学部	3
	総合文化学部	4
朝日大学	国際学部	1
朝日大学	法学部	1

大学名	学部名	合格人数
帝塚山学院大学	リベラルアーツ学部	2
帝塚山大学	経営学部	1
天理大学	国際学部	1
奈良大学	体育学部	1
	文学部	2
兵庫大学	経済情報学部	2
立命館大学	産業社会学部	1
流通科学大学	サービス産業学部	13
	商学部	19
龍谷大学	総合政策学部	10
	経営学部	1

専門学校合格者 51名

専門学校名	合格人数
ESPエンタテイメント	1
アミューズメントメディア総合学院	3
エコール辻 東京	1
トヨタ神戸自動車大学校	1
ハーベスト医療福祉専門学校	1
ビジュアルアーツ専門学校	1
ヒューマンアカデミーデザイン	1
メディカルエステ専門学校	1
環境学園専門学校	1
関西総合リハビリテーション専門学校	1
関西美容専門学校	2
関西保育福祉専門学校	2
京都建築大学校	1
金沢科学技術専門学校自動車工	1
阪神自動車航空鉄道専門学校	2
神戸ベルエール美容専門学校	3
神戸医療福祉専門学校	3
神戸製菓専門学校	2
神戸総合医療福祉専門学校	1
神戸電子専門学校	4
専門学校アートカレッジ神戸	1
大原簿記専門学校	1
大原簿記専門学校神戸校	2
大阪こども専門学校	1
大阪コミュニケーションアート	1
大阪スクールオブミュージック	1
大阪ビジネスカレッジ専門学校	1
大阪モード学園	1
大阪観光専門学校	2
大阪動物専門学校	1
辻学園調理・専門学校	1
辻調理師専門学校	1
兵庫栄養調理製菓専門学校	3
兵庫柔整専門学校	1

短期大学合格者 11名

大学名	学部名	合格人数
芦屋学園短期大学	幼児教育学科	1
関西外国語大学短期大学部	英米語学科	1
京都外国語大学短期大学部	キャリア英語学科	1
近畿大学豊岡短期大学	こども学科	1

大学名	学部名	合格人数
摂南大学短期大学部	神戸校港湾技術科	1
産業技術短期大学	電気電子工学科	1
大阪音楽大学短期大学部	音楽科声楽コース	1
大阪芸術大学短期大学部	メディア・芸術学科	1
兵庫大学短期大学部	保育科第一部	1
	保育第三部	1
湊川短期大学	人間生活学科	1

就職合格者 55名

企業名	合格人数
有限会社鳥居ダンススクール	1
株式会社HAA神戸	1
神戸エムケイ株式会社	1
アビーロード株式会社	1
クリタ・ケミカル関西株式会社	1
生鮮屋 大ちゃん	1
株式会社中の坊・有馬グランドホテル	1
株式会社王将フードサービス	1
株式会社ホテルニューアワジ	1
株式会社寿司田 大阪営業部	1
社会福祉法人 やすらぎ福祉会	1
株式会社三田屋	1
有限会社オリンピック製麺所	1
株式会社K&L Group	1
株式会社ネクストステージプロデュース	1
陸上自衛隊 自衛官候補生	1
兵庫県警察	2
株式会社千鳥屋宗家	1
川崎重工工業株式会社	1
山崎製パン株式会社	1
株式会社神戸製鋼所 加古川製鉄所	1
株式会社神戸製鋼エンジニアリング&メンテナンス	2
株式会社シマブンコーポレーション	1
株式会社三徳	1
カナテツデリカフーズ株式会社	1
株式会社神鋼環境ソリューション	1
日清鋼業株式会社	1
神和鉄金工業株式会社	2
不二グラフィック株式会社	1
株式会社ヤマセイ	1
浦元自動車	1
神鋼物流株式会社	1
西日本旅客鉄道株式会社	1
株式会社ニッコーコーポレーション	1
山田組	1
有限会社紙川防水興業	1
サカモト工業	1
すかた電工	1
トウメイ株式会社	1
吉川運輸株式会社	1
株式会社五島組	3
中央港運株式会社	2
兵食運輸株式会社	3
アサヒカルピスビバレッジ株式会社 近畿支社	1
株式会社木下商会	1
株式会社兵食	1
福山通運株式会社	1
株式会社サカイ引越センター 兵庫本部	1

表彰を受ける者

各賞を受賞する者および代表者

日本私立中学高等学校総連合会賞受賞者	9組	寺尾 健治郎
卒業証書授与総代	1組	香川 一樹
皆勤賞受賞代表者	3組	岡本 匡孝
精勤賞受賞代表者	2組	高島 勇弥
クラブ功労賞受賞代表者	6組	千葉 茜
金星会賞受賞者	9組	苅田 結光華
育友会賞受賞者	4組	三浦 和真

答辞 7組 木村 翔太

皆勤賞を受賞する者(46名)

1組	幾田健介、香川一樹、本間友行、前田拓也、前田優磨、松井彰宏
2組	門馬大介、嵯峨聖暁、中井勝年、堀江祥央
3組	石山智大、岡本匡孝、濱田雅己、平山将汰、三木将平
4組	望月 翼
5組	岡崎 翔、加藤泰彦、河野峻也、丹波翔太、古川貴大、安福雅哉、呂 嘉俊
6組	坂本拓也、高見恭平、長渡俊敦、半井大稀、藤野 琴、古橋賢治、山田朗大、横手圭介
7組	今井朝日、織田 謙、中安貴一、山内哉樹
8組	青島 功、重金大貴、塚本拓哉、長谷川 新原 季輝、森 彬人、森田秀一
9組	明石卓也、竹中将司、寺尾健治郎、藤川拓磨

精勤賞を受賞する者(67名)

1組	入迫大貴、田中万也、戸田 翼、八幡雄大
2組	北井理史、久保智哉、島田卓哉、高島勇弥、田畑佑馬、豊田幸一、藤原速人
3組	田畑樹哉、山下雅人
4組	石田健吾、大藤 湫、岡本未来、櫻井唯由、田川翔也、中下昂輝、藤原充裕、三浦和真
5組	大島秀彬、門崎仁志、小林真秀、玉井 敦、出口純也、寺本宜義、松本勇二、宮脇拓哉
6組	瀧谷 航、千葉 茜、橋本雅大、畑 雄貴、林 真乃介、前川真之、本岡直大、森岡真也、山口陽平
7組	井上 豪、内田健斗、大田将也、北村憲章、木村翔太、小尻了平、竹内湧哉、中谷駿介、前田拓人、松折 匠、三成主馬、村田 歩、山内颯斗

8組	青江成美、秋武純平、岩崎修也、寛 龍樹、千葉一穂、中山青空、長谷川直輝、松下将悟、吉永晋也
9組	秋定雅貴、石田健太、荻原慎太郎、鈴木雅人、段床隆太、寺口悟司、宮崎耕作

クラブ功労賞および功績

バレーボール部(11名)

平成24年度近畿高等学校バレーボール優勝大会
ベスト16

2組	豊田幸一
4組	玉久保一輝、望月 翼
5組	安福雅哉、呂 嘉俊
6組	坂本拓也、塩見翔悟、山田朗大
8組	岩井瞭汰、寛 龍樹、中谷勇真

柔道部(5名)

平成22年度第33回全国高等学校柔道選手権大会
団体戦出場

1組 田中一希

平成23年度第53回近畿高等学校柔道新人大会
団体戦5位

1組	田中万也
2組	五十嵐 優
4組	岡本未来

平成24年度全国高等学校総合体育大会

81kg級出場

3組 加納功貴

ゴルフ部(3名)

平成22年度全国高等学校ゴルフ選手権大会出場

7組 市場茜音

平成23年度関西高等学校ゴルフ選手権大会出場

5組 若狭悠樹

7組 市場茜音

7組 河野麗子

平成23年度全国高等学校ゴルフ選手権春季大会出場

7組 河野麗子

軟式野球部(4名)

平成22年度秋季近畿地区高等学校軟式野球大会
ベスト8

- 3組 玉谷海斗
- 5組 中村優斗
- 6組 橋本雅大
- 6組 畑 雄貴

空手道部(8名)

平成23年度近畿高等学校空手道大会出場

- 1組 松本文宏
- 2組 嵯峨聖暁
- 4組 林 聖也
- 4組 松本信明
- 7組 山内颯斗
- 8組 西浦昇吾

平成23年度全国高等学校桃太郎杯出場

- 6組 千葉 茜
- 6組 藤野 琴

硬式野球部(1名)

高校通算最多本塁打107本

- 3組 山本大貴

剣道部(5名)

平成24年度第85回全国玉竜旗剣道大会
敢闘賞

- 1組 前田優磨

平成24年度第50回近畿高等学校剣道大会

男子団体の部出場

- 1組 前田優磨
- 1組 香川一樹
- 1組 八幡雄大
- 7組 中安貴一
- 7組 松村哲志

生徒会(9名)

平成24年度7月

東日本大震災におけるボランティア活動

- 1組 谷口耀一
- 1組 本間友行
- 2組 福田甲庸
- 2組 山口達也
- 4組 中村雅紀
- 6組 辻岡直樹
- 6組 半井大稀
- 7組 木村翔太
- 7組 中谷駿介



活躍する各クラブ

硬式野球部

第94回全国高等学校野球選手権兵庫大会 ベスト16
平成24年度兵庫県高等学校優秀野球選手表彰
山本大貴

柔道部

平成24年度兵庫県総合体育大会柔道競技 男子団体3位
男子個人81kg級 加納功貴 優勝
平成24年度全国総合体育大会柔道競技(富山県)
男子個人81kg級 加納功貴 出場
平成24年度兵庫県高等学校新人柔道大会
男子団体 5位
女子団体 3位
平成24年度近畿高等学校新人柔道大会
男女団体戦出場
男女個人戦出場

軟式野球部

第57回全国高等学校軟式野球選手権兵庫大会 ベスト8
平成24年度春季兵庫県高等学校軟式野球大会 ベスト8
平成24年度秋季兵庫県高等学校軟式野球大会 準優勝
平成24年度秋季近畿地区高等学校軟式野球大会 ベスト8

バレーボール部

平成24年度兵庫県高等学校総合体育大会 第4位
平成24年度近畿高等学校バレーボール優勝大会 ベスト16
第11回全日本ビーチバレージュニア男子選手権出場
塩見翔悟 望月 翼
第17回全国私学高等学校バレーボール選手権大会 出場
第65回全日本バレーボール高等学校選手権大会兵庫県予選大会 第3位

ゴルフ部

平成24年度全国高等学校ゴルフ選手権大会 個人の部 出場
森 龍希
関西大会 個人の部 出場
●男子の部
若狹悠樹 浅井雄一郎 森 龍希
●女子の部
市場茜音 吉岡ひかる
関西高等学校男子団体の部出場

陸上競技部

2012年日本ユース大会
三段跳 藤井政明 8位
第56回兵庫県高等学校総合体育大会
三段跳 藤井政明 4位(近畿大会8位)
走幅跳 藤井政明 11位

第64回兵庫県高等学校ユース対校選手権大会
1年

200m 長町 融 準決勝進出
400mH 山崎元輔 出場
3000mSC 山内 凌 出場

2年

三段跳 藤井政明 優勝(近畿大会5位)

空手道部

平成24年度春季神戸市高等学校空手道大会
団体組み手 3位
平成24年度兵庫県総合体育大会空手道大会
団体組み手 ベスト8
平成24年度秋季神戸市高等学校空手道大会
団体組み手 3位
平成24年度兵庫県空手道新人空手道大会
団体組み手 3位
平成24年度私学中学高等学校空手道大会
団体組み手 2位
平成24年度金鯉杯争奪空手道大会
団体組み手 ベスト8
平成25年度全国高等学校桃太郎杯空手道練成大会
団体組み手 本大会 出場
団体組み手 一年生大会 ベスト8
平成25年度近畿高等学校空手道大会
出場

剣道部

平成24年度兵庫県総合体育大会団体 5位
個人 前田優磨 ベスト16
平成24年度姫路市民大会団体 優勝
平成24年度神戸市総合体育大会団体 3位
平成24年度全国玉竜旗大会
前田優磨 敢闘賞
平成24年度近畿高等学校剣道大会団体 出場

テニス部

夏季神戸丹有地区大会4部リーグ 2位
秋季神戸丹有地区大会4部リーグ 2位
兵庫県高等学校総合体育大会 個人シングルス
松折 匠 予選決勝進出
兵庫県高等学校新人大会 個人シングルス
吉田 優 予選決勝進出

水泳部

平成24年度兵庫県高等学校総合体育大会 出場
 平成24年度兵庫県選手権水泳競技大会 出場
 第61回神戸市総合体育大会 出場
 第55回兵庫県高等学校ジュニア選手権水泳大会 出場

バスケットボール部

平成24年度兵庫県新人戦 出場

サッカー部

平成24年度兵庫県高等学校総合体育大会 3回戦

卓球部

第67回国民体育大会卓球競技少年の部兵庫県予選会 出場

図書部

大阪市立中央図書館の見学
 第28回図書館ゼミを開催
 テーマ:『大阪市立中央図書館から学校図書館を考える』
 兵庫県立図書館訪問・神戸市立中央図書館訪問
 第31回読書会を開催
 作品:『岩塩の袋』田中小実昌〔著〕
 第60回文化祭に参加
 テーマ:『神港学園発祥の地「元町商店街物語」』
 第32回読書会を開催
 作品:『注文の多い料理店』宮沢賢治〔著〕
 第36回生徒図書委員研修会に参加(於・神戸女学院)

発行者

『僕たちの足どり-神港学園発祥の地「元町商店街物語」-』
 『ヘロヘロ(漫画同人誌)vol.30 モアイ(創作雑誌)vol.24合併号』
 『図書館便り番外編』No.68、No.69、No.70

鉄道研究部

神戸市青少年科学館「鉄道模型であそぼう」出展
 伊賀鉄道「伊賀線ふれあいまつり」出展
 阪急電鉄「阪急レールウェイフェスティバルIN王子公園」出展
 京阪百貨店すみのどう店「鉄道フェア」出展
 地域イベント協力 大正筋商店街、新開地商店街、御影クラッセ、大東市生涯学習センター「アクロス」など

美術部

兵庫県高校総合文化祭美術展出品
 兵庫県私学連合美術展
 奨励賞 平尾優也
 全日本学生美術展出品
 県展出品

書道部

大東文化大学 全国書道展
 金賞 小西亮平
 銀賞 関 昇一

銀賞 幸神 義樹
 兵庫県高等学校総合文化祭 書道展
 特選 小西亮平
 入選 関 昇一
 入選 幸神義樹
 兵庫県私学連合会 私学の書展
 入選 小西亮平
 入選 関 昇一
 入選 幸神義樹
 日本学書展
 入選 小西亮平
 入選 関 昇一
 入選 幸神義樹

プラスバンド部

金星会(同窓会)総会 招待演奏(ラッセホール)
 諏訪山神社盆踊り(諏訪山公園)
 JAPAN STUDENT JAZZ FESTIVAL 2012出場
 (神戸文化ホール)
 神戸 JAZZ 2012ワークショップ参加(ジーベックホール)
 神港学園神港高等学校 文化祭(神港学園神港高等学校)
 神戸 JAZZ 2012出演(神戸文化ホール)
 生田コミュニティフェスティバル(生田文化会館)
 私学フェスタ2012出演(新長田 鉄人広場)
 山の手ふれあいまちづくり協議会 クリスマス会(生田文化会館)
 みんな集まれ!X'masライブ開催
 (NHK神戸放送局 トアステーション)



県高野連 優秀選手
 山本 大貴

平成24年度「税に関する高校生の作文」入選者!!

税について思うこと

1年2組29番

平田 陽亮



ひとくちに税と言っても、色々である。僕が思いつくだけでも、消費税、所得税、酒税、たばこ税、自動車税、固定資産税、法人税などだ。多分、もっと他にも色々あるはずだ。この中で、特に身近なものとして感じられるのは消費税だ。食料品、衣料品など現在5%である。

先日国会において、消費税増税法案が可決されたため来年度からは8%、2015年には10%になるという。とても大きい数字のように思えるが、諸外国に比べればまだまだ低い税率らしい。

「ゆりかごから墓場まで」と言う言葉を聞いたことがある。つまり、生まれたときから死ぬときまで国から手厚い恩恵を受けて安心して、一生を送ることができるそうだ。

そうであれば、たとえ高い税率であったとしても良いと僕は思う。しかし現状は、必ずしもそうではないだろう。詳しい説明も受けないまま、一方的に増税されるのはちょっと納得できない。僕も、社会人になれば国民の義務として納税するのは当然だと思えるし、その覚悟もできている。

それは多分、僕の知らない様々なところで税金が使われているはずだから。

僕の母は、5年前から重度の腎臓機能障害により1級の身体障害者になった。見た目は元気そうだが、実のところは苦しいことが多々あるようでよく僕に「こんな病気になる前は分からなかったけど、随分と国に助けられているんだな。おかげでこうして生きていられる。」と言う。

まだまだ若い母は要介護5でありながら懸命のリハビリで、1年半前は歩けなかったが現在は数メートル自力で歩けるようになった。

もちろんこれから先もリハビリの先生と共に頑張っていくことだろう。

それもこれも国のおかげであると感謝している。まだまだ僕は税金のことについて全然知らないから、もっと知りたいと思っている。

まずは国税局のホームページ、税務署、県や市様々な税金についての情報を集めて日々の生活と税金の関わりについて学びたい。

知れば知るほど税金は面白くて奥深い。将来直接的に税金と関わるようになったとき知らなかったり驚いたりしないように今からしっかりと知識を身に付けておきたいのだ。

